

令和6年度予算案を審議 一般会計予算額は829億1000万円



予算審査特別委員会の様子

令和6年度一般会計予算については、8人で構成する予算審査特別委員会が2月26日に設置され、3月5日から7日、および11日の4日間にわたり審査が行われました。その後、3月19日の本会議において、賛成多数をもって原案のとおり可決されました。本会議における一般会計予算に対する、各会派等の意見は次のとおりです。

次の理由から反対です。①防災対策が不十分です。段ボールベッドの備蓄は「ゼロ」、令和6年度は備蓄倉庫の整備も「ゼロ」。災害時のトイレ対策としてトイレライトトイレの導入検討もせず、市内避難所70カ所中マンホールトイレの整備率も6割弱。一方、県や他市、企業からの支援に強く依存しており、備えも認識も甘いです。②高齢者の免許返納一時金制度や障害者の福祉タクシー券の利用拡大など、わずかな予算でできる市民要求の実現には背を向け、学校給食第

2子半額などの予算付けもありません。救急医療を確保するための予算も5年間据え置き、夜間小児救急も継続がより厳しくなっています。存続が求められている附属幼稚園の廃止計画をはじめ、市民要望がないがしろにされています。③通称「いざきロード」に5億3千万円、白みりんに関する施策に合計1億8千万円の巨額投資、市長肝いりの官製観光会社は、5千300万円も債務超過している上に2千万円の赤字補填など、施策の優先順位が逆転しています。

人口増を背景に、市民サービスの規模の拡大に対応した当局の予算配分を評価し、賛成とします。公共交通に関しては、ドライバー不足、経費高騰、2024年問題のドライバーの働き方改革が課される一方、地域の高齢化が加速し、公共交通の需要が増加しています。ぐりーんバスには経営的な機能以上に福祉の機能が必要であることを指摘し、検討を要望します。また、流山市成年後見制度のさらなる拡大、介護人材不足解消の取り組みとともに、地域におけ

どの拡大、②つばさ学園改修事業における施設環境などの再確認、③新設(仮称)要配慮児童保育コンシェルジュによる相談児童の課題整理や、適切な支援を受けられる保育園への入園、④事業系ごみの出し方の見直しに伴う、ごみの排出事業者や回収許可業者・処理業者に混乱が生じないよう対応、以上の事項について質疑し、それぞれ要望しました。今後に限られた財源を効率的・効果的に活用し、健全財政維持に努めることを確認していきます。

歳出面においては、人口の増加や物流施設の開設に伴う固定資産税の増額に加え、社会経済活動の回復を見越したことから、市税の増額を見込まれました。歳出面においては、①新たに(仮称)要配慮児童保育コンシェルジュを設置すること、②既存の分野別による福祉制度に当てはまらない困りごとや、複数の困りごとを抱えた世帯への支援として「生きづらさ包括支援事業」を導入することを、高く評価します。配慮すべき点として、

次の3点を要望します。①これまでの大規模災害や能登半島地震の教訓を踏まえ、備蓄食料や水の確保など、事態に即した防災対策の拡充を図ること。②2024年問題で不足が懸念される民間路線バスや流山ぐりーんバスの運転手確保に向け、市として側面的支援を強化すること。③生きづらさ包括支援事業については、市民への丁寧な周知に努めるとともに庁内連携を強化し、困りごとを抱える市民や世帯に寄り添う支援体制を早期に構築すること。

反対

日本共産党

各会派等の意見表明

予算審査特別委員会の委員長報告・議決結果などの詳細は、市議会ホームページをご覧ください。

こちらから
ご覧いただけます



流山市議会
予算審査特別委員会

検索

「予算審査特別委員会」

委員長	青野 直	委員	高橋 あきら
副委員長	岡 明彦	委員	笠原 久恵
委員	鈴木ゆうすけ	委員	楠山 栄子
委員	うた 桜子	委員	中川 弘

賛成

流政会

賛成

公明党

賛成

流山みらい

賛成

自由民主党